



## みことばは人となり、私たちの内に住まわれた 御降誕をお迎えし、受肉の神秘を記念する時、大切にしていきたいこと

猪口大記神父

世間はクリスマスも近づき、季節商品があふれ、ボーナスを狙っての商戦の季節となりました。また、クリスマスに続いては年末年始と、とても慌ただしい季節です。教会では、御降誕をお迎えする為にと、黙想会にクリスマス会に聖劇にコンサートにと、やはり慌ただしく、疲れ切って御降誕をお迎えしたら、年末年始は冬休みや帰省で家事は増え、親戚まわり等、しばらく教会どころではないという方々も多いと思われませんが、いかがお過ごしでしょうか。

しかし、何のために、教会はこの忙しい時期に御降誕をお祝いするのでしょうか。12月25日であることについては、歴史的な紆余曲折が色々な本に出ていますので、ここでは割愛します。大事なことは『何のために記念するのか』です。

とはいえ、私は別にアンチクリスマスシーズンイベント主義者ではありません。ケーキや聖劇、プレゼント等は、やはり御降誕の喜びを多くの人と分かち合う限りにおいて、とても素晴らしいものだと思います。確かに世俗化しているとはいえ、世の中の多くの人々が、何かよくわからずとも、少なくとも肯定的に『クリスマス』を捉えているなら、別に目くじらを立てる必要もないでしょう。私達がより善く正しく祝えばいいだけの話です。

ちなみに、典礼暦において待降節は新しい一年の初めです。この季節を救い主の誕生を

待ち望む旧約の時代の追体験のように捉えている人も多いと思います。しかし、受肉は一度限りの出来事です。毎年記念してはいますが、何もリセットされて、もう一度降誕を待ち望んでいるというわけではありません。待降節はそもそも『Adventus』といわれ『到来』を意味します。『受肉』と『再臨』と二重の意味で到来を待っているという理由で名づけられたものです。単に救い主の誕生日をお祝いしているだけではないのです。

さて、最初に戻って『何のために』という点で、大事なことを幾つかあげておきたいと思います。受肉の神秘においてとても大切なこと、キリストと教会に関して3つのことが言えます。①『神が人となられたこと』②『神であり人であること』③『教会も同様であること』の3つです。当たり前と思うかもしれませんが、教義を述べても心に響かないと思うかもしれません。しかし、教会はいわゆる『良いお話』を述べるのが使命ではありませんので、恐れずに言きましょう。

私達に救いがもたらされるのは、神が人間という弱い存在にまで自分をおとしめ、本当に苦しんで死んだということによるのです。十字架は受肉から始まっています。

そして、キリストが神であると共に人であるということが、今も教会の姿の基礎になればなりま

せん。教会は『キリストの体』と言われ、その使命を担うものだからです。この教会は『聖』で『俗』、『神』の側面と『人』の側面の両方を持ちます。だから、今私達の様な人間が招かれえたのです。またその使命を担う以上、キリストが神でありながら、人間、特に罪人を招かれたように生きる必要があるのです。教会が世の中のことに関わるのは自明であるといえます。

また、今や神は『わたしたちの間に』を超えて『わたしたちの内に』住まわれるということも心にとめていただきたいと思います。みことばはかつ

て人となられ、わたしたちの間に住まわれましたが、今や、聖霊によってわたしたちの内に住まわれます。

従って、みことばが今、わたしたちの内に受肉するかのように、生き活きと働くように生きたいものです。何も色々努力しなさいというのではありません。ただみことばを受けて、それを宿して生きてください。

以上、御降誕をお迎えし、受肉の神秘を記念する時、大切にしていきたいこと。

よろしく  
お願いします

## 新しく聖体授与の臨時の奉仕者に任命されました

小さきテレジア  
KM

(己斐・井口地区)

聖体授与養成講座で、7つの身体的慈善の業に病者を見舞うことを勉強いたしました。イエス様は公生活中沢山の病人を癒し、力づけ、慰められ人々は心からの喜びと平安を頂き、神様を信じ賛美しました。

聖書の随所に神様の私達に対する愛を感じ取ることができます。

ご聖体奉仕のお手伝いに緊張していますが、私なりに弱い人を守り、病める人に寄り添い、傷ついた人と共に祈り、話を聞かせて頂きながら、イエス様の行いに少しでも近づきたいと思っています。神様の愛の業に奉仕できますように、皆様お祈りください。

マリア・ローザ  
YE

(幟地区)

私は求道者として15年間を送り、受洗しました。今年で受洗後42年になりますが、一時期、病気のため自宅療養をしていたことがあります。その時、当時所属していた小教区の神父様のご聖体をもって訪問して下さい、自宅でご聖体拝領をさせて頂き、ご聖体に力づけられ、希望を持ち療養することが出来ました。

聖体授与の臨時の奉仕者は信仰共同体への奉仕をすると養成コースで学びました。私は「キリストの相伴としての奉仕」で、病者の方に心をこめて信仰者としての喜びと希望をお伝えできるよう励みたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

# 教会学校の子どもたちが 募金を行いました

教会学校の中学生が中心となって、募金活動を行いました。どこに送るか…という話し合いをしたとき、候補が2つ上がったので、2回行いました。

1回目はガザ地区の子どもたちのために9月28日(日)聖堂前で行いました。

パレスチナ・ガザ地区へのイスラエルの軍事侵攻は、ひとまず停戦になりましたが、未だに多くの破壊と犠牲が残されています。中学生たちは「被害にあっている自分たちと同じ子供たちのために信徒の皆様呼びかけ

たい」と決めました。

皆様の支援の結果、聖堂前募金では42,055円もの



支援金が集まりました。ありがとうございました。

そして、その一週間後、今度は八丁堀交差点(ヤマダ電機の角)で行いました。8月に起こった広島土砂災害のためです。当日は風が強く、雨も降りましたが、手作りの看板や大きな声で皆様に支援を呼び掛け、75,130円が集まりました。教会の皆様にもご協力をいただき、多くの支援金が集まりました。両方とも日本赤十字社を通してお送りいたしました。

ご協力ありがとうございました。

## 侍者の勉強したよ

10月19日、教会学校の侍者合宿がありました。15時から集まり、いつも使っているものをきれいにしようと燭台を磨きました。最初は乗り気ではなかった子供たちも黙々と磨き始めピカピカに仕上げました。

保護者が作ってくれたカレーを食べ、全員が集まった夜から侍者練習開始。侍者とは何か。立つときや朗読の時は…など色々なことを学び、練習いたしました。

次の日は練習の成果を見せるため、全員侍者をしました。この日が侍者デビューだった子もいました。





### 編集後記

最近家でパソコンを開く時間が少なくなりました。忙しいというより、家でまでパソコンに縛られているような感覚を覚えているのかもしれない。筆ならぬキーボードが遅くなり申し訳ありません(ひ)

